

2007年度木材学会中部支部大会 富山大会実施状況

富山県林業技術センター 中谷 浩

2007年度の木材学会中部支部大会は、木材試験場の再整備を実行中ということもあり、本来2006年度開催予定が、長野県さんに先に開催してもらい、2007年度の開催となりました。3年がかりで進めていた木材試験場の改築再整備も2007年3月で無事完了し、新たな施設で支部大会を開催することとなりました。特に、今回は、本館の研修室と隣のウッドルームがあるため、発表2会場を用意できること、さらには新たに完成した木質構造棟は体育館のように広い空間を持っていることから、展示発表も可能ということで、手作りの大会運営となりました。

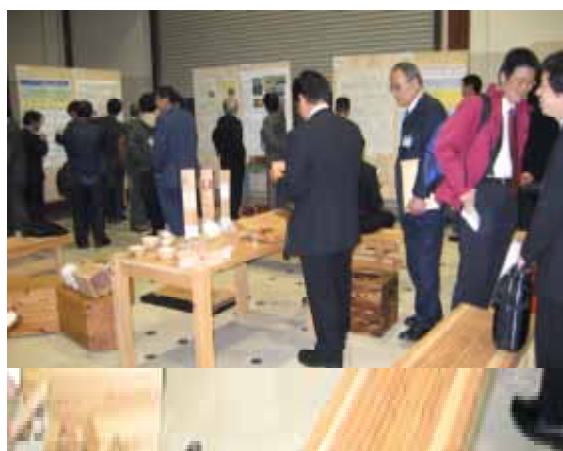
試験場が完成したこともあり、2007年度はさまざまなイベントが開催されました。6月に知事を招いての開所式、試験場研究成果発表会、化学加工研究会、それらの間に、新設なったということで訪問者も多く、忙しい日々の中で、木材学会中部支部大会の準備に忙殺されました。

大会は11月15～16日に設定しましたが、参加申し込みが悪く研究発表が成り立つのが不安になってきました。期限が来ても、十分な数に至らないことから、各大学に参加要請となりました。リグニン関係の大会と重なったとのことで、化学関係の参加が少なかったことが影響したようです。結局、試験場関係にも再度お願いするとともに、あとは富山でまかなうしかないため、木材試験場で5件、富山大学にお願いして3件、地域の企業にお願いして3件と総数37件のうち、11件も富山でまかなうことになってしまいました。

また、予算内に治めるという前提で、見学会や懇親会、参加費を設定するため、予定人数に満たないときは、赤字の可能性がでてくることも気をもむところです。できるだけ学生にも懇親会や見学会に参加してもらうため、価格を安く設定したいという意識もありますので、参加者の人数が一番の心配事でした。学会発表は研究者それぞれの思いでするものですが、大学、公設機関とも支部大会については、一定量の発表件数を用意してお



口頭発表風景



展示会場

く配慮が必要と感じました。

大会当日は、雨まじりの寒い日で、展示会場などは寒かったかもしれません。今回の大会では、富山県林業技術センター振興協議会に共催をお願いしたこともあり、富山県内の木材関連会社7社に製品等のパネル展示も行ってもらいました。地域の企業にとって学会というのは関係ない世界という意識が強いですが、大学や研究機関の先生方と気楽に話す機会を設け、先進技術や考え方に接してもらうことで、大学を身近に感じ、将来の地域企業の発展のきっかけとなって欲しいと考えたためです。これは、木材学会にとっても各地の木材産業が振興していることが存立の基盤であることを考えれば、特に支部大会などは裾野を広げる意味でも、地域業界と関わりを重視していくことが重要と思います。

また、今回の展示発表では、地域材を用いて家具などの製作を手がけている富山大学の丸谷先生の発表があり、ずいぶんたくさんの製品を持ち込まれたので、ポスター部だけでは足りず、会場中央に大々的に製品を展示することになりました。ポスターだけで研究を議論する通常の展示発表と異なり、文化的な展示会場の雰囲気もでて楽しい展示発表になったと思っています。

大がかりな本大会とは違って、企業の方も気楽に参加できるような支部大会にしていくことも、これからは大事なことと思います。